

POWER UP

INTERVIEW

新潟航空サービス株式会社 代表取締役社長

しょうじ さとし
莊司 聰氏

航空会社の業務を通して 新潟空港の“安全と信頼”を守る



PROFILE

1963年生まれ、新潟市出身。1987年法政大学経営学部を卒業し帰郷。同年、新潟交通株式会社に入社。「航空部」に所属し、新潟空港の業務に携わる。2014年 新潟航空サービス株式会社 取締役、2015年 常務取締役を歴任し、2016年 代表取締役社長に就任。

●その他、主な所属団体
新潟航空路活性化協議会 会長
新潟空港整備推進協議会 理事

新潟航空サービスは、新潟空港の旅客サービスから貨物運送、運航管理など幅広いハンドリング業務（地上業務）を受託し、行っている企業。日本を代表する2つの航空会社と信頼関係を築きながら新潟空港を支える同社の莊司社長に、お話を伺いました。



新潟航空サービス株式会社
〒950-0001
新潟市東区松浜町3663番地
新潟空港貨物地区内
TEL:025-270-5091
<https://www.nks-niigata.co.jp/>



空港の仕事はチームで行うので、自分の意見や疑問など何でも言える環境づくり、心理的安全性を高めることが大切だと思います



スタッフとの対話を大切にする莊司社長をはじめ、社員の9割以上が県内出身者。地元・新潟の玄関口でお客様に寄り添ったサービスを提供している。

航空会社のマインドとノウハウで幅広い地上業務を手掛ける

新潟航空サービスは、前身の新潟交通航空部門から分社化し2004年に設立。全日本空輸と日本航空（以下、ANAとJAL）の新潟空港における旅客、運航、貨物運送などの地上業務を受託している。「業種としては航空運送代理業になるのですが、現場のスタッフは代理という意識ではなく、一航空会社の社員として会社のマインドとノウハウを持って仕事に取り組んでいます。ANAとJALという日本を代表する企業の教育やノウハウを習得できる仕事というのは、新潟の会社ではなかなかないですし、当社の一つの強みだと思います」と、莊司社長は話す。

無事故記録を更新中。高品質なサービスでも高い評価を獲得

新潟空港におけるJALの運航は「44年間無事故記録」を持ち、その記録は現在も更新中だ。「特別なことではなく、日々の業務を確実に行うという積み重ねが、長期間の無事故に繋がっているのでは。新潟の冬は天候との闘いですが、過酷な環境の中でも基本をおろそかにしないということをスタッフたちは徹底しています」。さらに2024年には「ANA クオリティーアワード」において新潟航空サービスANA空港部が、全国内空港の中で最優秀賞を受賞。安全面と高品質なサービスで高い評価を受けている。

長年、現場の最前線に立ってきた莊司社長だが、これまでの中で特に心に残っているのが東日本大震災が起きたときだという。帰国の臨時便を求める外国人客がロビーにあふれ、早朝から深夜まで

対応に追われた。「最後の一便が出発したときに緊張の糸が切れたのか、スタッフみんなで号泣しました。あの一週間は本当に苦しかったですが、この経験を経てスタッフの仕事ぶりが目に見えて変わったのは嬉しいことでもありました」。

ワクワクした気持ちでお迎えしたい。そのための職場環境も整備

莊司社長が会長を務める新潟航空路活性化協議会には、新潟商工会議所も一員として参加。さらに新潟空港整備推進協議会では新潟商工会議所が事務局を務めている。「商工会議所さんにはいろいろな形でご協力、ご助言をいただきながら、これからも官民一体となって新潟空港を盛り上げる活動をしていきたいと思います」。

今後は、課題となっている人手不足に対応するため、採用活動と社員教育に注力するとともに、「ワクワクして空港に来られるお客様と同じように、私たちもワクワクした気持ちでお迎えしたい。そういう気持ちで仕事ができるように職場環境の改善なども実行していきたいです」と莊司社長。長年に渡り受け継がれてきた「安全と信頼」を基盤にしながら、多くの人に喜ばれる空港を目指していく。

社員募集中→
ご応募はこちら



厳しい天候の中でも基本を大事にし、日々の業務を確実に行なうことが安全に繋がる。スタッフの連携が円滑であることも重要な要素だ。